

平成 30 年度 根室の研究活動

研修部長 根室市立成央小学校
校長 近藤 康

1. はじめに

根室管内小中学校校長会は、これまでの取組を生かし、年に一度根室管内小中学校校長研究大会を開催している。

本年度は、昨年度スタートした3か年研究画に基づき、4分科会を構成して研究を推進している。

研究大会では各分科会の研究主題や研究視点等に沿って作成した一人一レポートを持寄り、協議を行った。



2. 研究計画

(1) 根室管内小中学校校長研究大会の開催

- ① 開催日 平成30年8月21日(火)
- ② 会場 中標津トーヨーグランドホテル
- ③ 研究主題

「根室の風土を生かし、
心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」

④ 研究主題設定の理由

学校教育においては、教育基本法や学校教育法が目指す普遍的な教育の根幹を踏まえ、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野をもち、未来を作り出していくために必要な資質・能力を子ども一人一人にはぐくむ必要がある。

平成28年8月に「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が取りまとめられた。その中では、子どもたちが社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」の理念を具体化する重要性を述べ、新学習指導要領において「生きる力」を①生きて働く「知識・技能」の習得②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の3つの柱に沿って具体化し、教育課程の枠組みを再整理するとしている。また、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携協力しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちにはぐくむ「社会に開かれた教育課程」の実現の大切さについても述べている。

これらを踏まえ、我々校長は、確固たる教育理念や将来へのビジョンをもち、これらの実現に向けてリーダーシップを強く発揮しなければならない。教職員の意識改革を図り、その資質の向上に努めるとともに、社会に開かれた信頼される学校づくりを推進する責務がある。

そのために、根室管内小中学校校長会は国・道の動向や根室管内教育推進の重点も踏まえ、教育改革の推進と学習指導要領に基づいた学校教育の充実を図るため、これまでの本研究会の成果を生かし、3か年継続研究の研究主題を「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」とし、四つの分科会の研究主題と具体的な視点を設定する。

(2) 全連小研究協議会北海道大会研究発表（平成30年10月4日）

第13分科会「連携・接続」において、「幼児教育との連携や義務教育9年間を見通した小中学校の接続など異校種間のつながり」をテーマとして研究発表を行った。

(3) 全道、全国研究大会への参加

全連小研究協議会北海道大会・道小研究大会函館大会(平成30年10月4日～5日)

(4) 道小研究大会胆振大会発表に向けてのプロジェクト

3. 研究の概要、研究活動など

(1) 平成30年度根室管内小中学校長研究大会分科会の研究内容

① 第1分科会（教育課程に関する内容）

- 研究主題「創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施」
- 研究の視点「豊かな人間性を育む教育課程と校長の在り方」
 - ・新たな社会を生き抜く人権感覚の育成
 - ・豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善

② 第2分科会（学校経営に関する内容）

- 研究主題「学校の教育力を向上させる研修等の推進」
- 研究の視点「学校における組織運営や指導の充実を図る研修の充実」
 - ・校長のマネジメント能力やリーダーシップを発揮する研修会等の充実
 - ・多様な専門性をもつ教職員と学校教育力・組織力の向上

③ 第3分科会（健全育成に関する内容）

- 研究主題「豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実」
- 研究の視点「児童が利用するインターネット機器をめぐる問題への取組と情報教育」
 - ・情報を正しく取捨選択し、情報モラルを大切にする情報教育の充実
 - ・主体的に生きていくための価値観や道徳的実践力の充実

④ 第4分科会（家庭・地域との連携に関する内容）

- 研究主題「家庭や地域と連携した学校経営」
- 研究の視点「学校の教育活動への参画を促す学校経営」
 - ・地域の教育力を活用した学校経営の充実
 - ・スキルや得意分野に応じた教職員や社会人の活用の在り方

(2) 道小研究大会胆振大会に向けてのプロジェクト

本年度の根室管内小中学校長研究大会第1分科会において、道小胆振大会第5分科会の研究課題・研究視点をもとにレポートを作成し、協議を行った。今後、プロジェクトを中心に検討し、そこで得た情報等も発表に生かしたい。

4. おわりに

本年度は3か年研究計画の2年次目であり、昨年度の反省を踏まえながら、課題解決にむけた校長の指導性、役割等が分科会協議の中で究明された。その成果を各校に持ち帰り実践、実証を行い、各市町で研究討議を行う。それをまた、管内全体で交流、研究討議を行うというサイクルをつくることで、実効ある研究となるよう努めたい。